

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
卒業研究		選択	4	4	通年
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 祐太 他	D310	y.sakamoto	月曜 10:30～12:10		
授業の目的・概要	卒業研究は研究活動を通じて科学的・論理的思考力を身につけることを目的とする。また、研究計画の立案、実行、研究計画の発表方法、科学者の倫理の概要について理解することも目的である。卒業研究は同時双方型授業などにより、まず、学生と教員の協議によって研究テーマを決定することから始まる。次いで、研究活動に必要な文献検索の指導やディスカッションを通じて研究計画の立案を行い、教員の指導のもと研究を実行する。最後に研究データを整理して論文の作成、発表会の準備を指導する。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。研究を通じて、積極的に仮説検証作業を経験し、理学療法に関わる思考過程を深めて欲しい。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	特に指定しない。				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	研究論文を批判的に読むことができるようになる。			PT (2)、(5)、(6)	
②	科学的事実と科学的推論を区別できるようになる。			PT (2)、(5)、(6)	
③	科学論文の基本構造を理解する。			PT (2)、(5)、(6)	
④	研究発表の方法を理解し、実行できるようになる。			PT (2)、(5)、(6)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	研究とは:医学の発展と研究の関係、研究の必要性などについて理解する。[担当:坂本] フィードバック:課題の返却やコメント等で実施	同時双方型	医学の発展と研究の関係、研究の必要性などに対する課題	10	
2	研究方法:基本的な研究デザイン、論文の基本構造、文献検索の方法について理解する。[担当:坂本] フィードバック:課題の返却やコメント等で実施	同時双方型	基本的な研究デザイン、論文の基本構造、文献検索の方法に対する課題	10	
3	研究倫理:捏造、改ざん、盗用、ギフト・オーサーシップ、二重投稿、利益相反について理解する。[担当:粕山] フィードバック:課題の返却やコメント等で実施	同時双方型	研究倫理:捏造、改ざん、盗用、ギフト・オーサーシップ、二重投稿、利益相反に対する課題	10	
4-28	この期間には研究の指導を受ける各研究室において以下に挙げる項目について実行する。 1. 研究に必要な文献の収集 2. 研究計画の立案 3. 研究の実施 4. 研究データの解析 5. 研究論文の執筆 研究発表会のプレゼンテーション作成 [担当:卒業研究 担当教員]	同時双方型 ならびに研究(測定など)の実施	所属する研究室の指導教官と相談の上、必要な予習復習を行う。	80	
29	卒業研究発表会 [担当:卒業研究 担当教員]	対面講義	プレゼンテーションの準備	10	
30	これまでの学習の総括 [担当:坂本]				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	60	40	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	10	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	30	0	0	30
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力		0	20	0	0	0	20
評価のポイント			評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法
評価方法	行動目標						
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	学期末に提出する卒業論文によって評価を行う。論文の評価には新規性や革新性は含まず、論文の基本構造を守っているか、また、データの取り扱いの適切さ、正確な文献引用、論理的に文章が記載されているのかなどを評価する。評価割合は60%とする。				担当教員が卒業論文の添削を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	学期末に開催する卒業研究発表会によって評価を行う。発表会の評価はプレゼンテーションにおける表現力とデータの妥当性のある解釈、論理的な質疑応答ができていかなどを評価する。評価割合は40%とする。				卒業研究発表会后、発表に関するフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	高村 浩司、粕山 達也、三科 貴博、坂本 宏史、田中 将志、成 昌燮、升 佑二郎、関口 賢人、駒形 純也、遠藤 悠介、大塚 篤也、甘利 貴志、 他						
教員の実務経験	理学療法士として7年の臨床経験、研究の実務経験あり						
実践的授業の内容	研究テーマを示した理学療法学科の専任教員と協議の上、受講するものとする。 4~28回は所属する研究室の教員と相談の上、日程を調節して実施すること。						
そ の 他	感染対策 ：大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 遠隔授業 ：teamsを使った同時双方型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の有線または無線環境を推奨する。 今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性がある。						